

8

チリリン・タイム 指導者解説



指導を受ける対象者の年齢、理解度などに
 応じた内容でご指導をお願いします。



○今月の指導内容

「自転車で道路を横断するとき、自転車横断帯があるときは、**自転車横断帯を通行する。**
 横断歩道があるとき、**歩行者がいる場合には自転車から降りて押して渡る。」**

○目標

自転車での道路の横断方法を理解させる。

○指導過程

段階	流れ	指導上の留意点
導入	質問	自転車で道路を横断する場合に、『自転車横断帯があるとき』、『横断歩道があるとき』、『両方ないとき』は、どのように渡ればいいのかを1～2人に質問する。
展開	自転車乗車時の心得	自転車横断帯があるときは自転車横断帯を通行する。横断歩道があるとき、歩行者がいる場合には、自転車から降りて押して渡る。道路状況や歩行者等によって横断の仕方が異なることを理解させる。
まとめ		基本的な交通ルール等を習得することにより、安全に乗車できるよう指導する。

○指導内容・指導上の留意点

指導目標	指導対象	指導内容
自転車での道路の横断方法を理解させる	小学生・中学生・高校生	<p>【自転車横断帯があるとき】 道路を横断しようとするとき、近くに自転車横断帯がある場合には、自転車横断帯を通らなければなりません。 自転車横断帯を通行する場合は、自転車に乗ったまま渡ることができですが、速度を落として通行するよう指導しましょう。</p> <p>【横断歩道があるとき（自転車横断帯がない場合）】 道路を横断しようとするとき、近くに自転車横断帯がなく、横断歩道がある場合は、自転車に乗って横断歩道を渡ることができません。 ただし、横断歩道は歩行者が安全に道路を横断するための場所です。横断中の歩行者がいるときなど、歩行者の通行を妨げるおそれがある場合は、自転車から降り、自転車を押して横断歩道を渡らなければなりません。 歩行者の安全を第一に考え、歩行者に優しい運転をするよう指導しましょう。</p> <p>【自転車横断帯も横断歩道もないとき】 道路を横断しようとするとき、近くに横断歩道も自転車横断帯もない場合には、左右の見通しのよいところを選んで、自動車が来ないことを確かめてから、道路を直角に渡りましょう。 斜め横断は、道路を横断する距離が長くなり、自動車と衝突する等事故の危険度が増すことから、絶対にしないように指導しましょう。 自転車で転回しようとするときは、一旦停止し、その状況に合う横断の方法によって道路の反対側に渡り、自転車の向きを変えるようにしましょう。</p> <p>自転車は、道路状況や歩行者等によって横断の仕方が異なることを理解させましょう。</p>

